安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 (製品名) コマツ　スプレーグリース

整理番号 05060

供給者の会社名称，住所及び電話番号

製造元

会社名	協同油脂株式会社
住所	神奈川県藤沢市辻堂神台2-2-30
担当部門	営業管理部
電話番号	0466-33-3113
FAX番号	0466-33-3054
メールアドレス	eigyokanri01@kyodoyushi.co.jp
緊急電話番号	0466-33-3112

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	潤滑グリース 等
使用上の制限	知見なし。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS 分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分1
健康に対する有害性	皮膚腐食性 / 刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	区分2A
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分2 (中枢神経系)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分3　麻酔作用
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	区分1
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分1

GHS ラベル要素

絵表示

注意喚起語 危険

危険有害性情報 極めて可燃性の高いエアゾール。 高圧容器：熱すると破裂のおそれ。 皮膚刺激。 皮膚及び眼刺激。 強い眼刺激。 眠気又はめまいのおそれ。 臓器 (中枢神経系) の障害のおそれ。 水生生物に非常に強い毒性。 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

安全対策 熱，高温のもの，火花，裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。 使用後を含め，穴を開けたり燃やしたりしないこと。 ミスト / 蒸気を吸入しないこと。 取扱い後はよく洗うこと。 この製品を使用するときに，飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 環境への放出を避けること。 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。 保護手袋を着用すること。

応急措置 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察 / 手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ，再使用する場合には洗濯をすること。 漏出物を回収すること。

保管 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。 日光から遮断し，50 ℃以上の温度にばく露しないこと。

廃棄 内容物 / 容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に関係しない又はGHS で扱われない他の危険有害性

可燃性。

その他の情報

混合物の10 - < 20 % は急性経口毒性未知の成分である。 混合物の10 - < 20 % は急性経皮毒性未知の成分である。 混合物の20 - < 30 % は急性吸入毒性未知（蒸気）の成分である。 混合物の5 - < 10 % は急性吸入毒性未知（粉塵およびミスト）の成分である。 混合物の70 - < 80 % は水生環境に対する急性危険有害性未知の成分である。 混合物の70 - < 80 % は水生環境に対する長期にわたる危険有害性未知の成分である。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重要な徴候

眠気又はめまいのおそれ。 昏睡。 頭痛。 吐き気、嘔吐。 行動面の変化。 運動機能を弱める。 重度の眼刺激。 症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがある。 皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがある。

非常事態の概要

可燃性。 エアゾール 与圧内容物。
与圧容器は熱や炎に暴露すると爆発する恐れがあります。 臓器の障害のおそれ。 眠気又はめまいのおそれ。 強い眼刺激。 皮膚刺激。 水路に排出されると環境に対して危険である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・ 混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	CAS番号	官報公示整理番号 化審法	官報公示整理番号 安衛法	含有量 (%)
Butane	企業秘密	*	*	30 - <40
Decane	企業秘密	*	*	10 - <20
Nonane	企業秘密	*	*	10 - <20
Propane	企業秘密	*	*	10 - <20
Octane	企業秘密	*	*	<1
N-undecane	企業秘密	*	*	<0.3
報告量を下回るその他の成分				10 - 20

化学式

特定できない。

組成情報

* の記載がある場合、番号は企業秘密

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し，呼吸しやすい姿勢で休息させること。 被災者を保温する。 気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。 汚染された衣服を脱ぐ。 直ちに石鹸と多量の水で洗い流す。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察 / 手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。 コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

誤嚥した場合は医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 医師の指示なしに無理に吐かせないこと。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。 医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

眠気又はめまいのおそれ。 昏睡。 頭痛。 吐き気、嘔吐。 行動面の変化。 運動機能を弱める。 重度の眼刺激。 症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがある。 皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがある。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

気分がすぐれないときは医療処置についてアドバイスを求める。（可能ならばラベルをみせる）
サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）を着用する。 医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。

医師に対する特別な注意事項

一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。 被災者の観察を続ける。 症状は遅れて出てくることがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧。 泡消火剤。 乾燥粉末。 乾燥砂。 粉末消火剤。 二酸化炭素（CO2）。

使ってはならない消火剤

消火に水噴射をしない。これは火災を拡散することになる。

火災時の特有の危険有害性

内容物は加圧下に置く。 与圧容器は熱や炎に暴露すると爆発する恐れがあります。 火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。 熱により容器が爆発することがある。

特有の消火方法

適切な保護具を着用する。 風上から適度に距離をとり、注意して消火すること。 危険を冒さずに可能な場合には、熱にさらされた容器を水噴射して冷却し、移動する。 熱により容器が爆発することがある。 蒸気圧の上昇を回避するため容器を水で冷却しなければならない。 貨物保管区域の大規模な火災に対してはできれば無人のホース保持機または遠隔操作ノズルを使用する。 もしそれができなければ避難して火が燃え尽きるまで待機する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消防士は、防火衣、フェースシールド付きヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣を着用しなくてはならない。密閉された場所では、自給式呼吸器（SCBA）も使用する。

一般的な火災の危険性

極めて可燃性の高い エアゾール。 可燃性。

特定の消火方法

関係者以外の立ち入りを禁止する。 人々を即時に安全な場所に避難させる。 通常の消火手順を用いる。影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。 危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。 火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。 熱により容器が爆発することがある。 散水して容器/タンクを冷却する。
小規模火災の場合のみ、粉末消火剤、二酸化炭素、砂または土を使用することもできる。
大規模な火災には、泡消火剤を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項，保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。 こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。 清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。 ミスト / 蒸気を吸入しないこと。 適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。 閉鎖された場所に入るときは事前に換気を行う。 流出が著しくて回収できない場合は、現地当局に通告すべきである。 個人用保護具については、本SDSの項目8を参照。

環境に対する注意事項

流出分を封じ込めて放出を防止すると共に、国の排出規則を遵守すること。 環境への放出を避けること。 全ての環境流出に該当する管理または監視要員に通知すること。 安全を確認してから、もれやこぼれを止める。 下水や水路、地面への排出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩を修復不可能な場合はシリンダーを安全で開放された場所に移す。 水を噴霧し、蒸気を減少させるか蒸気雲の流れの向きを変える。 全ての着火源（近くにあるタバコ、炎、火花、火）を除去する。 可燃性物質（木材、紙、油など）を流出物から遠ざける。 この製品は水と混合しない。 水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。
少量の漏出： 吸収材（例：布、フリース）で拭き取る。 残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。
大量の漏出：リスクを伴わずに可能なら、物質の流れを遮断する。可能な場合は漏出物をせき止める。後に処分するために流出物の前方に土手を築く。プラスチックのシートで覆い、拡散を防止しなければならない。バーミキュライト、乾いた砂または土に吸収し、容器に収納する。 廃棄物の廃棄方法については、本SDSの項目13を参照。

二次災害の防止策

すべての着火源を排除する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（局所排気、全体換気等）

加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 容器を切削、溶接、はんだ付け、穴開け、研削したり、あるいは熱、炎、火花やその他の発火源に暴露してはならない。 製品を取り扱う時に使用するすべての道具は、接地しておく必要がある。 換気のよい場所でのみ取り扱う。

安全取扱注意事項

引火性である。 裸火、熱源または発火源の近くで、取り扱ったり、保管したり、開けてはいけない。直射日光に当てないようにする。 日光から遮断し，40 ℃以上の温度にばく露しないこと。 加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 スプレーボタンが失われていたり不良品の場合には使用してはならない。 火炎や白熱物質に向けてスプレーしてはいけない。 スプレーの使用中またはスプレーした表面が完全に乾燥するまでは禁煙。 ミスト / 蒸気を吸入しないこと。 眼、皮膚、衣服への接触を避ける。 長期間または反復して皮膚に接触するのを避ける。 使用中は飲食や喫煙をしない。 取扱い後は手をよく洗うこと。 環境への放出を避けること。 産業衛生に気を配る。 空の容器を再使用しない。 本SDSの項目8で推奨されている個人用保護具を使用すること。 火の中へ入れないこと。

接触回避

強酸化剤。 詳細については、本SDSの項目10を参照。

衛生対策

取扱中は禁煙。 本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。

保管

安全な保管条件

施錠して保管すること。 高圧ガスタンク。日光を避けまた50℃ / 122華氏温度を上回る温度下に暴露しないようにして下さい。 缶が爆発する可能性があるので熱にさらしたり120°F/49℃を超える環境下で保管したりしてはならない。 穿孔、焼却、圧潰してはならない。 本物質は静電荷を蓄積し、火花を発生し着火源となる恐れがある。 裸火、熱またはその他の発火源の近くで取り扱ったり、保管したりしない。 与圧容器は熱や炎に暴露すると爆発する恐れがあります。 日光から遮断し，50 ℃以上の温度にばく露しないこと。
直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。 容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。 子供の手の届かないように保管すること。 混触禁止物質から離して保管すること（本SDSの項目10を参照）。

安全な容器包装材料

加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 物質を移送する時、容器を接地およびアースすること。 容器を切削、溶接、はんだ付け、穴開け、研削したり、あるいは熱、炎、火花やその他の発火源に暴露してはならない。 スプレーボタンが失われていたり不良品の場合には使用してはならない。 空の容器を再使用しない。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

標準監視手順に従ってください。

暴露限界値

日本産業衛生学会 - 許容濃度

成分	タイプ	数値
Butane	TWA	1200 mg/m3
		500 ppm
Nonane	TWA	1050 mg/m3
		200 ppm
Octane	TWA	1400 mg/m3
		300 ppm

米国. ACGIH 限界値

成分	タイプ	数値
Butane	STEL	1000 ppm
Nonane	TWA	200 ppm
Octane	TWA	300 ppm

設備対策

適切な全体換気· 局所排気装置を設置する。 適切な全体換気を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空気中濃度を暴露限界値以下に保つ。暴露限界値が設定されていない場合も、空気中の濃度を適切な濃度以下に抑える。 そうでない場合には、屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 洗眼設備および安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸用保護具

有機蒸気吸収缶付き化学用マスク。

手の保護具

適した耐化学薬品性の手袋を着用しなければならない。

眼，顔面の保護具

サイドシールドのついた安全眼鏡（またはゴーグル）とフェイスシールドを着用する。

皮膚及び身体の保護具

適切な耐化学薬品性の衣服を着用する。 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ，再使用する場合には洗濯をすること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 液体。

形状 エアゾール

色 黄土色

臭い 僅か

融点 / 凝固点 データなし。

沸点又は初留点及び沸点範囲 データなし。

可燃性 該当しない。

爆発下限界及び爆発上限界 / 可燃限界

爆発限界 - 下限(%) データなし。

爆発限界 - 上限(%) データなし。

引火点	38 ℃ (100.4 °F) セタフラッシュ
自然発火点	データなし。
分解温度	データなし。
pH	データなし。
動粘性率	データなし。
溶解度	
溶解度 (水)	水に不溶
n-オクタノール / 水分配係数 (log 値)	データなし。
蒸気圧	データなし。
密度及び / 又は相対密度	
密度	0.81 g/cm3 (25℃)
相対密度	データなし。
相対ガス密度	データなし。
粒子特性	データなし。
その他の情報	
エアゾールスプレーの着火距離	>= 90 cm

10. 安定性及び反応性

反応性	本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。
化学的安定性	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	引火点を超える温度を避ける。 混触危険物質との接触。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性

混合物の10 - < 20 % は急性経皮毒性未知の成分である。 混合物の10 - < 20 % は急性経口毒性未知の成分である。 混合物の20 - < 30 % は急性吸入毒性未知 (蒸気) の成分である。 混合物の5 - < 10 % は急性吸入毒性未知 (粉塵およびミスト) の成分である。

成分	種	試験結果
Decane		
急性		
吸入		
LC50	Mouse	72.3 mg/l, 2 時間
Octane		
急性		
吸入		
LC50	Rat	118 mg/l, 4 時間

皮膚腐食性 / 刺激性	皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	強い眼刺激。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	
呼吸器感作性	呼吸器感作性物質でない。
皮膚感作性	この製品は、皮膚感作を引き起こすとは予想されない。
生殖細胞変異毒性	本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。
発がん性	データなし。
生殖毒性	この製品は、生殖影響または発達影響を引き起こすとは予想されない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	臓器 (中枢神経系) の障害のおそれ。 眠気又はめまいのおそれ。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分に該当しない。
誤えん有害性	誤えん有害性でない。

12. 環境影響情報

環境影響データ

成分		種	試験結果
Decane			
水生			
急性			
魚類	LC50	Sheepshead minnow (Cyprinodon variegatus)	> 500 mg/l, 96 時間

生態毒性	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。
残留性・分解性	混合物中のどの成分も分解性について利用可能なデータはない
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	その他の環境悪影響（例、オゾン層破壊、光化学オゾン生成可能性、内分泌かく乱、地球温暖化の可能性）は、これらの成分からは予想されない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	現地の規定に従い、処分する。 廃棄するときは、適用法令、及び製品特性に従い、適切な処理・廃棄施設に内容物 / 容器を廃棄すること。 空の容器やライナーには製品の残余物が残っている可能性がある。本物質とその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。 廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。
汚染容器及び包装	製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。 空の容器を再使用しない。
地域の廃棄規制	廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。 内容物は加圧下に置く。 穿孔、焼却、圧潰してはならない。 本物質を下水 / 水道供給経路に流入させてはならない。 薬剤または使用済容器で、池、水路、溝を汚染してはいけない。 内容物 / 容器を現地、地域、国、国際規則に従って廃棄すること。 自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。 適用された規則に準拠して廃棄しなければならない。

14. 輸送上の注意

IATA

UN number	1950
UN proper shipping name	Aerosols, flammable
Transport hazard class(es)	
Class	2.1
Subsidiary risk	-
Packing group	Not available.
Environmental hazards	Yes
ERG Code	10L
Special precautions for user	Read safety instructions, SDS and emergency procedures before handling.
Other information	
Passenger and cargo aircraft	Allowed with restrictions.
Cargo aircraft only	Allowed with restrictions.

IMDG

UN number	1950
UN proper shipping name	AEROSOLS, MARINE POLLUTANT
Transport hazard class(es)	
Class	2
Subsidiary risk	-
Packing group	Not available.

Environmental hazards

Marine pollutant Yes

EmS F-D, S-U

Special precautions for user Read safety instructions, SDS and emergency procedures before handling.

一般情報 IMDGに定める海洋汚染物質。

IATA; IMDG

海洋汚染物質

国内規制 国内輸送については１５項の規制に従うこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法

通知対象物

ブタン	30 - 40 %
鉱油	10 - 20 %
ノナン	10 - 20 %

表示対象物

鉱油	10 - 20 %
ノナン	10 - 20 %
ブタン	30 - 40 %

毒物及び劇物取締法

特定毒物

該当せず。

毒物

該当せず。

劇物

該当せず。

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

消防法 第四類第二石油類(非水溶性液体) 危険等級III

船舶安全法・ 危規則 危険物 UN1950 引火性高圧ガス クラス2.1

航空法・ 施行規則 危険物 UN1950 引火性高圧ガス クラス2.1

船舶安全法は、個別運送及びバラ積み運送の条件下において。

16. その他の情報

引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices
HSDB® - Hazardous Substances Data Bank
IARC発がん性評価モノグラフ
日本化学工業協会　GHS対応ガイドライン、2012年6月
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告
JIS Z 7252：2019 GHS に基づく化学品の分類方法
JIS Z 7253：2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）
National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens

ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。 ご需要家各位におかれましては、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じた適切なる措置をお取りくださるようお願いいたします。

問い合せ先
会社名　:　協同油脂株式会社
営業管理部
住所　:　神奈川県藤沢市辻堂神台2-2-30
電話番号　:　0466-33-3113